



につさい

【校訓】自ら

【学校教育目標】

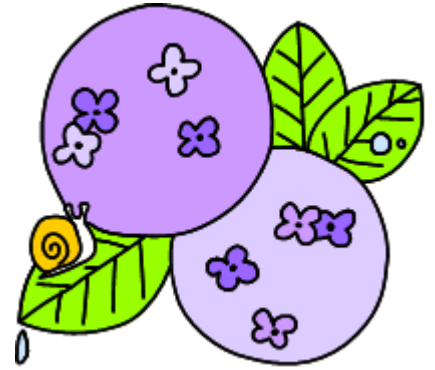
考える子・思いやる子・げんきな子

笑顔あふれる学び合う学校を目指して

入西小学校 令和3年6月1日 校長・太田 久美子

「子供をみる」ということ

早々梅雨入りかと思うような雨が続き、真夏を思わせるような蒸し暑さを感じられる日があったりと、体調を壊しやすい時期となりました。新しいクラスになってから、2か月が経ちます。お子様の様子は、いかがでしょう。授業参観などの公開が感染症予防としてできない状況の中、「わが子の様子は？」と心配される保護者の方もいらっしゃいます。今回は、「子供をみる」ということについてお話します。



子供たちは、「人から見てもらえること」をととても喜びます。小さければ小さいほど、「先生、見て～」と一つ一つ確認しに来ます。その場で褒められると喜び、後回しにするとふてくされます。学校という社会の中では、「後回しにされること」は往々にしてあり、どんなに手を尽くしても30人以上いる子供たち全員の要求をいっぺんに応え喜びに変えることは困難です。そこで、隣の友達がその役割を果たしてくれます。互いに見せ合って嬉しそうな顔をする子供、安心する子供・・・そのタイミングを逃してしまう子をうまく繋ぐことが教師の役目と考えています。

また子供たちは「大丈夫？」と気にかけてもらえることで安心します。小さな傷でも傷を診て、「痛かったね。消毒しましょう」と手当をしてあげることによってほっとします。時にはおなかに手を当て「冷たくなっているね。おなかをあたためようか」と看ています。学校では、保健室にはもちろんのこと各教室にも消毒や絆創膏を常備し、「大丈夫？」と声をかけたり、保健室には温かい湯たんぽ代わりにペットボトルや冷やすための保冷剤が用意され、おなかを温めたり打ち身を冷やしたりしています。

一方で、子供たちを「観察」することも大事にしています。学校では様々な活動を通して「自立」を目指しています。その中で集中して取り組んでいる様子や子供同士のトラブルの様子を「じっと観察すること」もしています。自分の学びを自分のものにしたり、友達とのトラブルを子供同士で解消したりと「大人の手」を借りずにできるかな？という目で観ていくことも大切です。時には子供を「客観視」して、子供のよさや不十分さを分析することも必要です。

「みる」という語を漢字で表すと上のように「見る」「診る」「看る」「観る」「視る」という字になります。それぞれはいろいろな側面から子供をみることの大切さを伝えていると思いませんか？

一番身近にいるクラスの子、わが子を一方向からしか見ることができない時があります。その時は、深呼吸して、周りを見渡し、この5つの「みる」を試みてみましょう。きっと今までと違う子供の姿を見ることができるはず。それを楽しみながら、子供を育てていきましょう。

校長室から②

今年度も3年生以上の子供たちに坂戸市から4冊の「さかろんノート」が配布されました。今年の表紙は青。毎年表紙のデザインを変えて気分をあげてくれます。(ご覧になったことありますか?)

新年度早々に、1冊終了して校長室に持ってきてくれた子供たち。「これいつやったの?」と聞くと「春休み中からやっていたから、さかろんノートではないけれど、終わりました!」と自信満々の提出です。〇〇シリーズ、日記、英単語練習など内容は様々です。ある子の日記には「母の日のプレゼントを買いました。母の日まで待たずに渡してしまいました。来年は、母の日まで我慢します。」というような内容が書かれていました。なんだかほっこりします。子供のワクワク感が伝わりました。コメント、賞状を付けて返却します。ワクワクしてくれるといいなあ・・・

